令和４年度 職能委員会報告

保健師職能委員会

支部理事：森河内　麻美

１．活動方針および活動目標

1）看護職間の連携強化に関する情報収集・課題集約
2）保健師のネットワーク及び組織強化に関する課題発見・意見集約

２．活動内容

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者 延べ数
定例委員会 【マルイトOBPビル】	1)新型コロナウィルス感染症関連の現状及び課題集約 2)保健師ネットワーク強化と入会促進について現状分析 3)重症化予防に向けた看護職連携の情報収集 4)周産期グリーフケアの取組み及び課題集約 5)保健師交流会の開催	全９回	(委員11名) 99名
保健師交流会 【マルイトOBPビル】 【WEB開催】	「みんな、どうしている？」 思っていること、困っていること等を話そうよ！ 対象：新任期・中堅期保健師	12月３日	29名
保健師・助産師職能合同会議 【マルイトOBPビル】	議題「流産・死産されたお母さんに対する支援：地域との連携システム・支援者情報提供票について」	２月３日	20名

３．活動実績

【活動の概要】
1）看護職間の連携強化：保健師・助産師職能の合同会議を開催し、昨年度からの懸案事項である「流産・死産されたお母さんに対する支援」のため事例の選定基準等の意見交換及びそれぞれの現場の課題の共有を行ない、新たに情報提供票を作成し、試行することになった。
2）保健師のネットワーク及び組織強化：新任期・中堅期保健師を対象に保健師交流会を開催した。交流会では、意見交換を行いお互いの悩みなどの共有と業務量が多い等の課題も出された。また、本協会の保健師会員の所属や年齢について集計を行ない、組織強化のため対象となる組織毎のアプローチの方法について検討を行なった。

４．課題・その他

1）地域のおける重症化予防における看護職の役割・連携について検討
2）大阪府内で働く保健師に本協会の活動を幅広く周知する方法の確立
3）様々な現場の声を聞き、課題については声を上げるために保健師ネットワークの強化

助産師職能委員会

委員長：松山　栄子

１．活動方針および活動目標

1）病院で流産・死産を経験した母親に対する支援として医療施設と地域とをつなぐ連携フローを作成する。
2）医療施設と地域とをつなぐ情報提供用紙を作成する。
3）タイムリーな課題発見・意見集約

２．活動内容

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者 延べ数
定例委員会 【マルイトOBPビル】	1）流産・死産後に退院した母親の状況について情報共有 2）流産・死産後の母親に対する医療施設での援助の実際について現状共有 3）医療施設と地域とをつなぐ情報提供票の作成 4）その他 ・コロナ陽性妊産褥婦への対応について情報共有 ・「母子のための地域包括ケアシステムの推進」について情報共有	全11回	（委員12名） 132名
近畿地区助産師職能合同委員会 【Web開催】	大阪府看護協会担当 講演：周産期を取り巻く国の動きと助産師への期待 講師：日本看護協会　井本寛子 理事 意見交換・交流会	12月10日	11名
保健師・助産師職能合同会議 【マルイトOBPビル】	流産・死産を経験した母親への支援（連携フロー・情報提供票）について情報共有・意見交換	２月３日	委員　20名 大阪府 2名

３．活動実績

【活動の概要】
1）流産・死産を経験した母親に対する支援：地域との連携システム構築における情報共有
① 流産・死産を経験した母親の状況と課題
・医療施設では、母親の要望に沿ったグリーフケアを実施しているが、緊急搬送の事例等では情報不足もあり十分なケアができないまま退院となってしまう事例もみられている。さらに死産届が提出されても事務手続きに時間を要し、各市町村の母子保健担当保健師にタイムリーに情報が伝わらないため、不必要な母子情報が届くことがあり、母親が傷つき体験することが起こっている。昨年度作成したピアサポート会の周知とともに医療施設と地域が連携を図り、迅速に対応できる支援体制を構築していくことが重要である。
2）流産・死産を経験した母親への地域連携体制構築のための方法検討
① 医療施設と地域とをつなぐ連携フローの作成
② 情報提供用紙の作成
・現状では、要養育支援者情報提供票を用いて情報提供することが多く、他に診療情報提供書や看護サマリーを使用している。しかし要養育支援者情報提供票は、特定妊婦や虐待予防の観点から作成されたものであり、流産・死産された母親の情報提供には適さないため、別の様式を作成し職種間で共有していく。

４．課題・その他

1）地域の助産師・保健師との情報収集、ネットワークの強化
2）「流産・死産を経験した母親への支援」のための地域との連携体制構築について、作成したフローと情報提供票を大阪府下の看護職（産科関連機関で勤務する看護師・助産師・保健師）へ周知

看護職能Ⅰ委員会

委員長：中筋　知美

１．活動方針および活動目標

1）本会の活動方針を会員に周知し、現状の情報収集と課題を整理する。
・看護補助者の確保と定着における課題発見
・地域包括ケアシステム推進に向けて、各病床機能で求められる看護職の役割発揮に関する課題発見 外来機能に焦点を当てて
・病院におけるCOVID-19のタイムリーな問題点の情報共有
2）課題から現状分析を行い、今後取り組むべき対策の意見交換を実施し看護協会へ提言する。

２．活動内容

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者 延べ数
定例委員会 【マルイトOBPビル】	・COVID-19各施設の現状報告・情報共有と課題抽出・対応 ・看護補助者の確保と定着における情報収集と課題発見 ・地域包括ケアシステム推進に向けて外来機能に焦点を当てて情報収集と課題発見	全11回	（委員12名） 132名
交流会他 看護職能ⅠⅡ合同会 【マルイトOBPビル】	テーマ:地域包括ケアシステムの中で、患者を生活者として支援する看護について考える。	全１回 12月23日	ⅠⅡ委員 19名

３．活動実績

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
定例委員会	大阪府看護協会が看護補助者の確保・定着に向けたモデル事業参画にあたり情報提供	全３回	12名
定例委員会	外来機能における病院看護職の役割について好事例から考える。	全７回	10～12名
看護職能Ⅰ・Ⅱ合同会議	職能Ⅰ・Ⅱ分野での患者支援について、クリニカルラダーの到達目標を踏まえ、各職能分野の看護実践能力の現状と課題について討議・課題の抽出	12月23日	19名

【活動の概要】
看護補助者の様々な雇用形態や資格の有無、賃金における地域差がある。補助業務内容においては身体介護等のスキル獲得に向けた教育の必要性や、看護師との協働における関係性等に課題は多い。近年は、補助者の高年齢化も問題であるが、短時間や夜勤専従では学生など若い世代の就業もみられる。まずは、看護補助者と言う職業の広報と、モチベーションを高められるような働き方を、看護師がともに見出す必要性がある。
地域包括ケアシステム推進に向けて、外来看護職の役割及び連携体制の強化が重要となる。職能Ⅰ・Ⅱ合同会議では、クリニカルラダーの４つの力に対する視点や役割がそれぞれ違うことを理解した上で、患者を地域（在宅）に帰すための目標設定の重要性を再認識した。それらを踏まえて、外来看護機能での好事例から、現状の課題発見に繋げ連携体制を強化する。

４．課題・その他

1）2022年度も各施設のCOVID-19の影響は大きく、定例会において意見交換を行い問題点や実践されている対策を、タイムリーに理事会等で報告した。5類感染症への移行に向けて、状況を予測しながら院内感染対策の更なる検討が必要である。

2) 地域包括ケアシステムをすすめるにあたり、看護職能ⅠとⅡ合同会議の中で、病院と在宅では活用できるサマリー等の情報に差異がある事を互いに理解した。病院看護師は生活者としての患者を見据えた情報を提供し、在宅医療につなげる必要性がある。今後は地域包括ケア委員会とも協働を深め、更に課題を整理していく。

看護師職能Ⅱ委員会

委員長：遠藤　瑞穂

１．活動方針および活動目標

1）看Ⅱ領域におけるBCP(事業継続計画)作成、改善に関する情報収集、課題発見
2）看Ⅱ領域における看護管理者のマネジメント力向上及び看護職の専門知識・技術の習得に関する情報収集・課題発見
①看Ⅱ領域の看護管理者のマネジメント力向上について
②看Ⅱ領域で働く看護職の専門知識・技術の習得について
3）看Ⅱ領域に関連した本会事業のトピックスに対するタイムリーな課題発見・意見集約

２．活動内容

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者 延べ数
定例委員会 【マルイトOBPビル】	1）BCP作成、改善に関する情報収集・課題発見 2）看護管理者のマネジメント力向上及び看護職の専門知識・技術の習得に関する情報収集・課題発見 ①看護管理者のマネジメント力向上について ②看護職の専門知識・技術の習得について 3）COVID-19各地の現状把握	全９回	（委員12名） 108名

３．活動実績

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
看護師Ⅰ・Ⅱ職能 合同委員会 【マルイトOBPビル】	地域包括ケアシステムの中で、患者を生活者として支援する看護について考える －看Ⅰ.Ⅱ領域での患者の支援について、クリニカルラダー看護実践力より現状を共有し、今後の課題を考える－	12/23 全１回	19名

【活動の概要】
1）BCP作成、改善に関する情報収集・課題発見
多くの施設はBCP作成に取り掛かっているが、施設全体、地域全体を網羅したBCP作成には至っておらず、作成に難渋している。普段の業務量、施設の設備を把握し、資源に応じて優先順位をつけ資源の配分、業務量を調整等共通理解した。引き続き各施設の取り組みの共有や、情報交換しやすい環境つくりが引き続き必要である。
2）看Ⅱ領域における看護管理者のマネジメント力向上及び看護職の専門知識・技術の習得に関する情報収集・課題発見
①看護管理者のマネジメント力向上について
病院看護管理者マネジメントラダーの6つの能力を参考に、現状と課題を検討した。人材育成能力（将来を見据えて、看護人材を組織的に育成・支援する）、創造する能力（幅広い視野から組織の方向性を見出し、これまでにない新たなものを作り出そうと挑戦する）が課題であるという意見が多く述べられた。看Ⅱ領域は、少人数の看護職員での組織運営体制が大多数を占め、管理者が現場で実働することも少なくない。マネジメントに専念できないこと、長期研修は人員配置の兼ね合いで、困難であることも一因といえる。また看護以外の職種（介護福祉士、看護補助者等）との、関係性構築も課題という意見が多かった。
②看護職の専門知識・技術の習得について
看Ⅱ領域ではラダー活用自体未だ格差がある。看護師の異動や採用の際、ワークライフの「ライフ」に重点を置いている看護師が一定数存在する。学習意欲そのものが課題であり、生涯学習についての教育の必要性を感じている。現在看護師は様々な場で「判断」を求められ、今後はさらに「判断」の機会は増加することを念頭に置き、「判断」できる看護師育成が必要である。そのためには客観的な指標での

看護師の実践力の評価は重要であり、指標となりうるラダーを活用した実践力の評価につい看Ⅱ領域でも情報発信を続ける。

3) COVID-19各地の現状
第7波では複数のサービス利用の利用者が陽性となった場合、個人情報が理由で陽性情報が伝わらず、職員が濃厚接触となったケースがあった。地域の高齢者のアフターコロナのADLの低下、体力の低下が著しい。ADL低下が加味された区分や、ケアプラン変更、特別指示で訪問看護の介入を変更するなどが必要であるが、変更されないケースが多々ある。ADL低下に伴う支援の再立案が必要である。予防接種の後の発熱契機のフレイル、サルコペニアの進行も大きな懸念事項である。感染対策は多くの施設、訪問看護も慣れてきており、7波、8波は職員確保は引き続きの課題である。

看護師Ⅰ・Ⅱ職能合同委員会
テーマ：地域包括ケアシステムの中で、患者を生活者として支援する看護について考える
-患者の支援について、クリニカルラダー看護実践力より現状を共有し今後の課題を考える-

患者が地域に戻るためには、看Ⅰ.Ⅱ領域がお互いの立場を理解して目標を定める必要がある。生活する場と、治療する場は異なる。それぞれが役割を果たし補い、生きる力を支える必要がある。コロナ禍で話し合う機会は激減したため、連絡が取れる手段の工夫が引き続き必要である。

看Ⅰと看Ⅱ領域では、クリニカルラダー看護実践能力の4つの力の実践のボリュームが異なることを理解できた。実践内容の差異を理解した上での人材育成が必要である。

合同委員会で、互いの看護実践や困っていることなど様々な意見を聞くことができた。それぞれが各領域の看護の役割を理解することは、実施可能な継続看護の体制構築につながる可能性があり、今後も合同委員会の開催により、具体的な方法を検討していきたい。

４．課題・その他

1) BCP作成、改善では取り組みの共有、情報交換しやすい環境つくりが必要である
2) 看護管理者のマネジメント力向上では「人材育成能力」「創造する能力」、看護以外の職種（介護福祉士、看護補助者等）との関係性構築が課題である
3) 看護職の専門知識・技術の習得は、「判断」できる看護師育成と、ラダーを活用した実践力に関する情報発信が必要である
4) 職能Ⅰ・Ⅱ合同委員会開催を継続し、各分野の看護の役割を理解したうえで、実施可能な継続看護を検討する必要がある

令和４年度 委員会報告

准看護師問題検討委員会

委員長：赤見　朋子

１．活動目標

1)「看護チームにおける看護師・准看護師及び看護補助者の業務範囲に関するガイドライン」及び活用ガイドの周知を図る。
2)リーダーシップをとっている中堅看護師を対象にワークショップを開催し、ガイドラインの周知を行いながら准看護師と協働して質の高い看護を提供するための具体策を明らかにする。

２．活動内容

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
定例委員会 【マルイトOBPビル】	1)看護チームにおける役割の明確化と看護師・准看護師との協働や取り組みについての検討 2)ワークショップの企画立案、開催及び評価について検討、実施	全10回 （ハイブリッド形式）	委員14名

３．活動実績

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
委員会活動 【マルイトOBPビル】	委員会で１）２）についての活動内容を討議し、課題に取り組んだ。	第3木曜	委員14名 （延べ100名）
ワークショップ 【マルイトOBPビル】	テーマ：看護チームにおける役割を明確にし、看護師、准看護師が協働していくために～好事例の紹介と課題解決のヒントを見つけよう！～ 1)看護チームにおける役割を明確にし、看護師、准看護師が協働していくために - 教育の立場から - 2)看護チームにおける看護師・准看護師・看護補助者の協働のための取り組み 3)准看護師との協働に向けた取り組み - 准看護師クリニカルラダーを導入して -	11月17日	参加人数43名 （内、委員14名）

【活動の概要】
当委員会は、2つの目標をもとに活動に取り組んだ。ワークショップでは、対象を看護師長、副看護師長、主任等のリーダーとし、上記テーマで看護師、准看護師の協働におけるこれまでの取り組みを教育、臨床の立場から事例紹介した。その後のＧＷでは、臨床の実践者として情報共有、意見交換した。准看護師が多い施設では、看護師・准看護師としての役割分担は困難であり、必ずしもガイドラインのとおりにはできない現状がわかった。院内教育については、看護師・准看護師が同じ教育計画に則り実施されている施設が多く、准看護師の教育課程については、ワークショップに参加したことで理解が得られたようであり、有意義な機会となった。また参加者の意見として、准看護師を支援する必要性や、准看護師ラダーについて検討したい等の意見もあり、看護師・准看護師がお互いに尊重しながら看護に取り組むことの重要性を感じることができた。

４．課題・その他

1)「看護チームにおける看護師・准看護師及び看護補助者の業務範囲に関するガイドライン」の周知については、労働環境支援委員会と連携して看護管理者からスタッフまで浸透するように今後も継続する。
2）准看護師の進学支援は今後も継続課題であり、情報共有・情報発信していく。
3）准看護師施設内教育計画・教育方法などへの支援の検討を行う。

広報委員会

委員長：新開 裕幸

１．活動目標

会員向け機関誌「OSAKA看護だより」と府民向け「テアテ」の企画編集を審議し、看護協会の活動の内容や看護職の活動について幅広く会員・府民に情報発信する。

２．活動内容

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
広報委員会 【マルイトOBPビル】 【ZOOM開催】	1)「OSAKA看護だより」府民向け「テアテ」の企画編集の審議 2) 広報委員会の広報活動の重要性と実際についての意見交換 3) 今年度の振り返りと来年度の活動についての検討	全９回	委員11名

３．活動実績

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
OSAKA看護だより №148号	原稿入稿 1) 災害と医療、事前の確認と備え	11月20日 発行	1名
OSAKA看護だより №149号	原稿入稿 1) もうすぐ2年目！新人看護師頑張っています！！ 2) 災害の備えと、初動への課題	1月20日 発行	3名
テアテ №21号	原稿入稿 1) 災害時に命を守る　わが家の防災対策 2) 普段から準備しておく3つのもの	9月20日 発行	2名
テアテ №22号	原稿入稿 1) 健康レシピ	3月20日 発行	1名
その他広報活動	1) 支部及び各施設での協会イベント等の周知		

【活動の概要】

会員向け機関紙『おおさか看護だより』、府民と看護をつなぐ機関紙『テアテ』への掲載内容の企画と紙面評価、SNS（Facebook、Instagram）の有効活用、ホームページ更新、看護の日のイベント等について、各委員が積極的に聴取した自施設職員の意見も取り入れ、活発な意見交換を行った。本年はタスク・シフト/シェアで重要な役割を担うナースエイド（看護補助者）、コロナ禍で看護学生時代を過ごした新人看護師、看護協会の福利厚生について、が話題に上ることが多く、ナースエイドは『おおさか看護だより』、『テアテ』両誌で、新人看護師と福利厚生は『おおさか看護だより』特集を掲載することができた。

４．課題・その他

1) ホームページの更新
2) SNSの有効活用
3) 会員数の増加

医療安全対策委員会

委員長：竹本　さと子

１．活動目標

委員は各支部から医療安全に関する問題点や困りごとを情報収集し、その内容をもとに委員会より各支部へ情報発信することができる。

２．活動内容

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
定例委員会 【マルイトOBPビル Zoom併用】	委員が所属する各施設や支部交流会の医療安全に関する取り組みの中で、委員会で検討したいテーマについてアンケートを行い、緊急性のある課題や興味のある課題18件について年間計画を立て検討を行った。検討結果は支部交流会でフィードバックするとともに、看護だよりの医療安全通信にて発信した。	全12回	委員 26名
交流会他 【各会場または Zoom開催】	支部医療安全交流会 府北3回・府北西4回・府北東3回・府東4回 市北4回・市西4回・市東3回・市南6回 堺2回・府南3回・泉南4回	全40回	延べ 600名

３．活動実績

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
学会報告 【ハイブリッド形式】	第10回　大阪府看護学会 「支部医療安全交流会活動報告」ポスター展示	2022年11月 26日～2023年 1月12日	－
医療安全対策委員会 学習会	①ポリファーマシーについて ②インスリン関連インシデント	2022年 7月7日	25名
医療安全対策委員会 学習会	③医用テレメーターに関するインシデントを 考える	2022年 8月4日	22名
看護だより 11月号	コロナ禍における医療安全対策として、①隔離室における患者確認。②レッドゾーンにおけるモニターのチャネル変更。③医療材料不足に伴う慣れない材料の取扱いに関する注意喚起を発信した。	2022年 11月	発行数 55,500部
看護だより 1月号	委員会や支部交流会で検討・共有した以下の項目について、情報発信した。①CT・MRI撮影時のリブレ貼付。②転倒・転落の大けが防止作戦、多職種で取り組むには。③RRS活動してますか？④急変時に使える救急カートの整備の工夫。	2023年 1月	発行数 53,800部

【活動の概要】
今年度の目標に基づき、以下に関する検討、発信を行った。
①インシデント報告増加のために。②医療安全管理者の役割と体制。③報告書管理体制加算取得に関する工夫。④患者誤認0に向けた取り組み。⑤医療安全研修の内容や工夫。⑥転倒転落防止、多職種との協力体制。⑦RRS活動のすすめかた。⑧急変時に使える救急カート。⑨問題発生時のトリアージ。⑩身体抑制0に向けた取り組み。⑪暴言暴力、ペイシェントハラスメントへの対応。⑫説明書・同意書の工夫。⑬医療安全マニュアル体系。⑭安全対策周知の工夫・対策の評価など。事前に各施設の情報を収集し検討したことで、先進的に取り組んでいる施設から情報が得られ、検討を深めることができた。また、委員会からの提言を支部交流会や医療安全通信に繋げることができた。

４．課題・その他

1) 今年度は委員の関心の高いテーマに対して情報交換できた点は良かったが、現状報告に終わることもあった。次年度は具体的な対策の検討や提示まで行いたい。
2) 定例委員会をZoom併用とし、出席率の低下は防止できたが、グループワークが十分に開催できていない。次年度検討を深めるためにはZoomを活用したグループワークも定着させていく必要がある。
3) コロナの影響もあり支部交流会参加施設数は減少傾向である。次年度は支部交流会参加者の意見を基に課題を明確にし、興味のあるテーマを委員会から提案することができるよう活動の活性化を図る。
4) 現在、委員会は支部交流会会員から選出しているが、医療安全管理者がいないクリニックや訪問看護ステーション、介護関連施設等には十分な情報が提供できない状況にある。今後、これらの施設の医療安全体制を支援できるような活動も必要と考える。

防災・災害看護委員会

委員長：杉田　智惠子

１．活動目標

諮問事項（1）～（6）のうち、
(1) 災害支援ナースの登録に関すること
(2) 災害支援ナースの研修・防災訓練等の質向上に関すること
以上を中心に活動する。

２．活動内容

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
定例委員会 【マルイトOBPビル】	災害支援ナース育成について・災害支援ナース登録啓発活動について・DVD研修実施支援など	全11回	18名

３．活動実績

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
研修 【ナーシングアート大阪（ハイブリッド）】	「災害支援ナース第一歩」研修支援	8月22.23日10月13.14日	計214名
研修 【ナーシングアート大阪】	「災害支援ナース育成研修」	12月23日	145名
啓発活動 【各支部】	委員が各支部代表者会議に参加し、災害支援ナース育成・登録に関する啓発活動	10月～11月	―
災害支援ナース必携マニュアル改訂	内容見直し、改訂版作成	10月	―
訓練参加 【東京・高知】	「自衛隊艦艇等を活用した災害医療活動訓練」参加	11月・2月	1名

【活動の概要】
災害支援ナースの登録推進を目標に、「災害支援ナースの第一歩」研修を２回/年開催に増やし、開催時期も受講しやすい時期とした。また、委員会メンバーが研修支援し、災害支援ナースの登録方法や登録状況、災害支援ナースの声の紹介、リーフレットの配布などの啓発も行った。
災害支援ナースの登録啓発活動として、委員が各支部代表者会議に参加し、大阪府災害支援ナースの現状を伝え、登録啓発を行った。その結果「災害支援ナース育成研修」への参加数が例年の3倍となり、災害支援ナース登録数は340名から392名（12月末現在）に増加した。「災害支援ナース必携マニュアル」を4年ぶりに一部修正し、更新した。

４．課題・その他

1）災害支援ナース登録者が増加する企画の工夫と実施
2）災害支援ナースマニュアルの見直し
3）災害支援ナースの質向上のためのフォローアップ研修企画実施

感染対策委員会

委員長：掛屋　弘

１．活動目標

大阪府内で暮らす地域住民を感染症から守るために、地域保健医療福祉における質の高い感染対策の推進を図る。

２．活動内容

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
定例委員会 【ハイブリッド】	1. 社会福祉施設等感染症予防重点事業実施報告と課題の検討 2. 中小規模病院等感染症予防重点事業実施報告と課題の検討 3. 「感染症予防を実践・推進できるリンクナース育成研修」企画・実施報告・評価 4. 大阪府看護協会感染管理地域ネットワーク活動報告等	全６回	委員 15名

３．活動実績

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
大阪府受託事業 社会福祉施設等感染症予防重点事業	施設訪問：今年度訪問予定数250件中244件。（2023年1月末実績）	－	－
	電話相談：計26件（2023年1月末実績）	－	－
	研修会:「(社会福祉施設等看護師対象)感染症予防を実践･推進できるリンクナース育成研修」	7月12、13日 7月26、27日 8月9、10日 +半日見学実習	250名 ※1月末時点見込み
	研修会:「社会福祉施設等応援派遣職員向け実技研修会」	10月13日、26日	9名
	研修会:「社会福祉施設等における新型コロナウイルス感染症対策に係る　実地研修会」	11月14日、15日	277名
大阪府受託事業 中小規模病院等感染症予防重点事業	中小規模病院訪問：　17件	－	－
	研修会：「(中小規模病院看護師対象）感染症予防を実践・推進できるリンクナース育成研修」	5月24、25日 6月7、8日 6月21、22日 +半日見学実習	157名
研修会等講師	大阪府補助金事業：クラスター発生病院等への出向に関する感染対策の研修	4月、5月、7月	56名
	大阪市健康局健康推進部依頼：健康危機管理担当保健師研修・連絡会「高齢者施設での二次感染予防について」	6月9日	31名
	大阪府受託研修:「多施設合同研修（新人看護職員研修)」	7月16日	280名
	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会依頼:「新型コロナウイルス感染症への対策と体制作り」	8月4日	50名
	大阪府教育センター教育企画部依頼：「養護教諭・栄養教諭研修」	8月5日	77名

	大阪老健協会依頼:「介護老人保健施設に従事する介護リーダー層に対する感染症予防対策研修」	9月9日	50名
	奈良県看護協会依頼:「新型コロナウイルス感染症対応看護職員等派遣調整事業　講演・交流会」	2月17日	200名
学会発表	第10回日本感染管理ネットワーク学会学術集会「大阪府看護協会感染管理地域ネットワークの構築による地域連携」	5月20日	－
	第37回日本環境感染学会学術集会「リンクナース育成研修」「感染管理地域ネットワークの構築」	6月17.18日	－
	第53回日本看護学会学術集会「地域完結型大阪モデル-大阪府看護協会感染管理地域ネットワークの構築-」	9月1日 11月8日	－
	第6回日中韓看護学会「社会福祉施設等への感染管理専門家派遣による感染症予防対策強化」	11月3日	－
	大阪府訪問看護シンポジウム「行政とともに取り組む感染対策強化支援と大阪府看護協会感染管理地域ネットワーク活動」	11月19日	－
執筆	メヂカルフレンド社『看護展望』「感染症から地域と施設を守る」	5月刊行	－
	幸書房『感染と消毒』「社会福祉施設の感染対策と今後」	8月刊行	－
	メディカ出版『INFECTION CONTROL』「大阪府看護協会感染管理地域ネットワーク」	11月刊行	－

【活動の概要】

本委員会は、医療・福祉・介護施設、在宅等感染予防に関すること、感染対策に関する研修及び啓発事業に関することを審議事項とし、今年度は主には、大阪府から受託した「社会福祉施設等感染症予防重点事業」および「中小規模病院等感染症予防重点事業」、感染管理地域ネットワーク活動に係る実施報告と共有、課題についての審議、大阪府補助金事業「感染症予防を実践・推進できるリンクナース育成研修」の企画・実施報告・評価および課題についての審議を行った。中でもリンクナース育成研修と大阪府看護協会感染管理地域ネットワークの構築と活動については、今後の新興感染症の再来を見据えて、全国的にも取り組むべき課題として、学会等での発表や執筆活動を積極的に行い広報に努めた。

４．課題・その他

1)リンクナース育成研修プログラムの見直し、今年度の評価をもとに、管理者研修・ビギナーズコース・リンクナースコースなど段階的なステップアップ研修を開催
2)リンクナース育成研修修了生対象の地域における継続した育成プログラムの構築
3)大阪府看護協会感染管理地域ネットワーク支部活動の実施（研修会・リンクナースフォローアップ研修等）

教育委員会

委員長：林田　裕美

１．活動目標

あらゆる場で働く看護職の「専門職」としての生涯学習を支援し、人権尊重を基盤とした幅広い看護サービスの維持・向上に貢献する質の高い看護人材を育成することを目的とし、教育研修を担っている。教育研修の円滑な運営を行うとともに、研修の評価に基づいて次年度の研修を検討、さらに現場のニーズに基づいた研修を新規に企画する。

２．活動内容

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
定例委員会 【マルイトOBPビル】	1）終了研修報告・評価・短期研修申込状況共有 2）次年度の新規研修企画	第４金曜 全12回	委員 18名

３．活動実績

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
短期研修 【マルイトOBPビル・ナーシングアート大阪】	全91研修 【集合研修】83 【ZOOM開催】8	0.5日～3日 延べ112.5日	延べ 約6191名
教育委員企画 トピックス研修 【ナーシングアート大阪】	「社会人基礎力を身に着け、自分の可能性を広げよう！」 【講師】　高橋　恵 聖マリアンナ医科大学 ナースサポートセンター長	R4年 9月22日	38名

【活動の概要】

短期研修の運営・進行に参加し、受講者への研修内容の難易度や理解度、満足度などを尋ねる研修受講後アンケートの記入結果をもとに、研修テーマや内容、時間配分、実施方法などを評価した。研修は、新型コロナウイルス感染防止対策を講じて運営した。本年度よりアンケートはWEB回答としたこともあり、委員会での検討・情報共有まで時間短縮ができたが、回収率低下が課題として残った。2023年度新規研修の企画では、臨床現場における問題・課題を念頭に、中堅看護師や看護管理者を対象とする研修を企画した。委員が4グループに分かれて、研修テーマ、目的・目標、内容、講師などについて意見を出し合って検討を進めた。また、新規研修と既存研修との重複についても検討し整理を進めた。

４．課題・その他

1）WEBによる研修申込システム導入により、研修受講後アンケートがWEBによる回答入力に変更となり、回収率が、平均61.4％と低下しているため、回収率を向上するための対策を検討する。
2)臨床現場からの要望やニーズに基づいて、教育委員が中心となり新規研修を企画し、教育委員会で新規企画した研修は、企画者が研修の担当・評価を行うことでより良い研修の実施につなげる。
3)新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じた感染防止対策の継続により、安全に研修を運営する。

学会委員会

委員長：井上　京子

１．活動目標

看護職の実践に根ざした学術研究の振興を通じて看護の質の向上を図り、大阪府民の健康と福祉に貢献することを目的に、臨床看護実践・看護教育・看護管理などの看護に関する内容を発表する場となるよう、大阪府看護学会の企画・運営を行う。

２．活動内容

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
定例委員会 【マルイトOBPビル ナーシングアート大阪】 【Zoom開催】	1)第10回大阪府看護学会の企画・抄録査読・優秀演題候補演題の推薦・運営・評価 2)次年度の第11回大阪府看護学会の企画	全12回	委員 16名

３．活動実績

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
第10回大阪府看護学会 【ハイブリッド開催】	テーマ：看護の原点を問う ～新たな時代への挑戦～ 会長講演「看護の原点を問う～新たな時代への挑戦～」 講師：大阪府看護学会　学会長　弘川摩子 特別講演①「ユーモアを生きる～困難な状況に立ち向かう最高の処方箋～」 講師：淀川キリスト教病院　柏木哲夫氏 特別講演②「日本の医療の未来～多様な価値に寄り添うためのテクノロジー～」 講師：恵寿総合病院　神野正博氏 教育講演「これからの倫理と看護」 講師：千葉大学大学院看護学研究院 手島 恵 氏 シンポジウム「医療・看護支援ロボット・AIとの協働～その中に愛はあるんか？～」 シンポジスト：大阪大学大学院医学系研究科 森下竜一氏 湘南鎌倉総合病院 鵜川美穂氏 ミルキク　森永康平氏 一般演題：78題(優秀演題候補5題のみ会場発表) 企業展示：16社、大学大学院紹介：4校 企業展示ブースにてスタンプラリーを実施	会場開催 11月26日(土) 12:00～16:30 Web配信 11月26日～ 1月12日	【11月26日】 会場参加154名 WEB参加 54名 関係者含め計282名 参加者数 603名 (うち学生 3名) アクセス件数 1713件

【活動の概要】

昨年度はWEBオンデマンド配信による開催であったが、今年度は大阪府看護協会での開催およびライブ配信を交えてのハイブリット型の開催の円滑な運営を目指して取り組んだ。主な変更点は1)優秀演題５題の会場発表、2)学会当日のライブ配信、3)演題登録区分の見直し、である。その結果、演題応募79題中採択78題（第9回81題)、会場開催およびライブ配信、WEB配信ともに円滑に運営することできた。参加者は603名、アクセス件数は1713件であった。12月委員会で運営課題を明確にして、次回開催に向けて準備を進めている。

４．課題・その他

1)すべての一般演題が会場（大阪府看護協会）で発表できるように、開催方法を検討する。
2)学会参加の促進を図る。

倫理委員会

委員長：横田　香世

１．活動目標

大阪府看護協会の事業に関連して実施される研究、その他、委員会の目的を達成するために必要な倫理的事項を審査する。

２．活動内容

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
定例委員会 【ナーシングアート】	倫理審査会議の期限までに提出された研究計画書類一式について倫理審査を行う	全３回	委員 9名

３．活動実績

【活動の概要】
令和4年度は倫理審査申請がなく、3回開催を予定していた委員会は全て休会となった。

４．課題・その他

研究・学会発表を大阪府看護協会内でも促進していく。

地域包括ケア委員会

委員長：林　佳美

１．活動目標

顔のみえる関係からともにつながる実践へ
①地域にある医療機関、介護施設、在宅サービス等の資源、特性を理解する。
②相互理解を深め、看看連携、多職種連携を促進する。
③地域のネットワークを構築する

２．活動内容

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
定例委員会 【協会OBP本部】 【オンライン】	2022年度委員会活動目標、活動計画の検討 看看連携・多職種連携のあるべき姿についての検討　各支部での活動報告、情報交換	全10回	委員 13名

３．活動実績（※オンライン）

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
府北支部活動 ※	施設紹介、連携事例報告　４施設	9/27・10/25 11/22・1/24	
府北西支部活動 ※	施設紹介、連携事例報告　1施設	1/26	28名
府北東支部活動 【市立ひらかた病院】	「看護職交流会～ともにつながる地域包括ケアの実践へ～」 講師：美杉会佐藤医院　朝比奈由美子氏	1/14	74名
府東支部活動 ※	施設紹介、連携事例報告　2施設	11/29・12/27	21名 22名
府南支部活動 【大阪府はびきの医療センター】	「府南支部看看連携ワーキング」開催 看看連携促進に向けの情報共有手段、ICTの活用等についての情報交換	11/15	20名
市北支部活動 ※	施設紹介、連携事例報告　3施設	11/30・12/21 1/25	各25名
市西支部活動 ※	施設紹介、連携事例報告　3施設	11/25・12/23 1/27	11名 11名 10名
市東支部活動 ※	施設紹介、連携事例報告　1施設	1/26	
市南支部活動 ※	連携事例検討会「老人保健施設と病院の連携」	9/29	36名
堺支部活動 ※	各施設におけるACP啓発活動内容の現状調査・調査報告　ACP啓発活動にむけての意見交換	9/26・10/25 11/22	25名 28名 24名
泉南支部活動	ACP勉強会開催/施設紹介10施設	9/27	33名

【活動の概要】
今年度は、11支部で看看連携、多職種連携の促進に向け、地域にある医療機関、介護施設、在宅サービス等の機能や役割について相互理解を深めることを目的に、地域包括ケア委員が各支部施設代表者会に積極的に参加し、施設紹介や連携好事例を発表する活動を主体的に行えた。各支部の特色をいかし、ACP啓発活動などを取り入れた勉強会、研修会を企画し開催するなど、地域ネットワーク構築に向けて、地域包括ケア委員として各支部での活動を推進することができた。

４．課題・その他

次年度の課題は、地域包括ケア委員が各支部施設代表者会等に参加し、地域にある機関の機能や役割について相互理解を深め、医療・介護の連携強化に取り組み、地域ネットワーク構築に貢献していくことである。また、医療・介護の連携において、情報共有の要となるACP啓発活動の推進にも取り組んでいきたい。

訪問看護師支援委員会

委員長：森谷　和代

１．活動目標

訪問看護師のためのカスタマーハラスメント予防・対応ハンドブック（以下、ハンドブック）やリーフレット（令和3年度作成）を活用し、訪問看護師と利用者・家族によるパートナーシップ構築を基盤としたハラスメント予防の推進および啓発活動により、訪問看護実践における課題解決に寄与する。

２．活動内容

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
定例委員会 【マルイトOBPビル Zoom開催】	1）ハンドブック、リーフレットを活用し自施設の啓発方法への共有 2）自施設での啓発活動のまとめ 3）訪問看護が抱える課題の共有	全6回	委員 12名

３．活動実績

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
啓発活動	委員がハンドブックを活用し自施設で啓発活動を行った。	6～12月	
ハンドブック配布 事務局	ハンドブックは10.500冊を印刷し行政、医師会、医療機関、会員へ配布。リーフレットおよびハンドブックはHPからダウンロード可能とした。アクセス数はリーフレットが226件、ハンドブックは293件（2023年2月時点）		
啓発活動のまとめ	啓発活動について共有およびまとめ	11～12月	
訪問看護の抱える 課題の抽出	訪問看護師の抱える課題を共有	12～1月	

【活動の概要】

会長からの諮問を受け、訪問看護師の実態調査からの課題である「ハラスメント」について今年度はハンドブックやリーフレットを活用し、委員がそれぞれ自施設での啓発活動をおこなった。啓発内容・方法として、ハンドブックを用いた自施設内での勉強会の開催や自施設内で起きたハラスメント事例についてディスカッション等があった。それらの取り組みから委員が管理者としてハラスメントを意識しステーション内で起こりえるハラスメントへの理解を深め、ハラスメント予防や利用者とのパートナーシップを構築する重要性について再確認することができた。今後も各地域やステーションでハラスメント予防について活動を継続していく必要がある。

４．課題・その他

訪問看護師支援委員会は3年間の活動を通してリーフレット、ハラスメント事例集、ハンドブック、自施設の啓発活動のまとめを作成し、委員会を終了する。今後、訪問看護の抱える課題については、引き続き看護師職能Ⅰ・Ⅱと大阪府訪問看護ステーション協会と共有を図り検討していく。

労働環境支援委員会

委員長 :山田　由起子

１．活動目標

1）看護職が健康で安全に働き続けることができる労働環境づくりの推進について検討できる
　① タスク・シフト/シェアの推進に係る課題や対応について検討する
　② プラチナナースが就業継続、活躍できる環境について検討する

２．活動内容

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
定例委員会 【マルイトOBPビル】	2グループに分かれ ①看護師業務のタスク・シフト/シェアの現状把握と意向調査に関する検討と②プラチナナースの雇用推進についての検討	全10回	委員 15名

３．活動実績

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
「看護だより5月号」へ活動内容を掲載	大阪市立総合医療センター、済生会富田林病院、めぐみ訪問看護STで活躍するプラチナNsの活用と施設側の取り組みについて実践報告	2023年5月	
タスク・シフト/シェアに関する現状および意向調査	各施設のタスク・シフト/シェアに関する取り組みの現状及びタスク・シフト可能な（タスク・シフトしたい）看護業務の洗い出しを行う	2023年5月	

【活動の概要】
　今年度２つのテーマを軸に議論を進めた。①働き方改革の推進に伴い、看護師の専門性を発揮するために看護師業務のタスク・シフト/シェアについて②2040年を見据えた定年退職後の看護師、いわゆるプラチナナースの活用について検討した。その結果、①では、看護師業務のタスク・シフト/シェアの現状と意向を明らかにするためアンケート調査を実施することを決定し、2018年に発表された「効率的な看護業務の推進に向けた実態調査」（研究代表者 坂本すが氏）を参考に質問紙の作成を行った。②では、実際のプラチナナースの活用事例を収集し「看護だより」にて紹介することとした。

４．課題・その他

・今後の生産労働人口の減少を見据え、看護がより専門性を発揮するためのタスク・シフト/シェアの推進およびプラチナナースの活躍は引き続き重要な取り組みである。また業務の効率化を図り、ICTの活用を推進しマンパワー不足を補える働き方の検討も必要である。
・新型コロナウィルス感染症が2類から5類へと引き下げられ、医療提供体制が変化することで職場環境へ与える影響などについても議論、検討が必要である。

中小民間病院看護支援委員会

委員長：田尻　愛子

１．活動目標

看護補助者の労働環境に関連した問題・課題を整理し、看護補助者の雇用が困難な要因を分析できる。

２．活動内容

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
定例委員会 【マルイトOBPビル】	看護補助者の労働環境に関するテーマごとに検討し課題の整理を行う。テーマ「処遇」「勤務体制」「教育」「看護職との連携・協働」「雇用上の工夫」	全10回	委員 12名

３．活動実績

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日数	参加者数
看護補助者の 労働環境について アンケート	看護補助者の労働環境に関する実態調査（雇用条件・看護補助者の呼称・勤務体制・看護職との連携協働・雇用の工夫）を実施	10月	146施設
交流会他 【 各9支部 】	①委員会活動の進捗状況報告②看護補助者の労働環境についてアンケートの協力依頼③covid-19感染症他、課題や問題の共有、情報交換	全54回	述べ参加520施設

【活動の概要】

中小民間病院看護支援委員会は、従来、支部交流会を通した地域ネットワークの構築を目標として活動してきた。今年度、交流会を主軸とした活動から中小規模病院が抱える共通課題を議論、検討するよう委員会目標を設定した。検討内容は看護補助者の雇用・定着が困難となっている理由や要因を労働環境の視点から検討した。テーマは「看護補助者の処遇」「勤務体制」「教育体制」「看護職との連携・協働」「雇用の工夫」に分けてアンケートのデータを元に各病院の現状と照らし合わせながら、議論を重ね、課題の整理をおこなった。その中で定年年齢に関わらず雇用した事例や補助者業務を細分化して雇用につながった好事例を情報共有し自施設へ導入を考える機会となった。

支部交流会については、対面やZoom、施設代表者会を活用して看護管理者同士の情報交換や委員会活動について情報提供することができた。

４．課題・その他

看護補助者の雇用・定着を目標とするために労働環境の視点から議論を重ねてきた。現状と課題は明らかにすることができたと思うが、それぞれの病院が自施設でできることを丁寧に実践していくことが今後の課題である。

ナースセンター運営委員会

委員長：西野　万寿子

１．活動目標

1）ナースセンター事業（①地域の看護職確保推進　②復職支援強化　③災害時等に対応できる潜在ナース・プラチナナースの活用　④キャリア支援）に関する事項について協議する。

２．活動内容

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
定例委員会 【マルイトOBPビル】	ナースセンター事業に関する運営についての協議	全３回	委員15名

３．活動実績

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
運営会議 【オンライン会議】	1）ナースセンター事業の現状報告（2022年度ナースセンター事業担当者会議より） 2）令和３年度ナースセンター実績報告 3）令和４年度看護職確保対策について 4）令和４年度ナースセンター事業計画 5）日本看護協会事業説明 6）各委員からの意見交換	７月28日	15名
運営会議 【マルイトOBPビル】	1）令和４年度ナースセンター事業中間報告 2）日本看護協会事業について 3）他団体への看護職就業に関する協力 4）就職・進学授業について 5）各委員からの意見交換	11月24日	14名
運営会議 【マルイトOBPビル】	1）令和４年度ナースセンター事業報告 2）日本看護協会事業について 3）他団体への看護職就業に関する協力 4）キャリア支援について 5）各委員からの意見交換	３月２日	14名

【活動の概要】

委員会はコロナの影響を考慮し、オンライン開催に変更するなどして開催した。地域における看護職確保については、コロナに対応する潜在看護師が様々な働き方で医療現場につながれるよう現場の課題について情報共有をした。新型コロナ感染症については各委員からの情報共有を行い、各施設での看護職、看護補助者の確保対策について意見交換を行った。

４．課題・その他

コロナ禍で離職した看護職が疲弊により復職していない実態があり、復職に向けたナースセンターとのつながりを継続する必要がある。また、委員会では各団体との連携を強化し、潜在看護師の復職支援の強化、プラチナナースの活用について協議が必要である。ナースセンターの事業遂行においてもハローワークとの連携をさらに強化し、地域包括ケアで求められる看護職の確保に努める必要がある。

事業運営委員会

委員長：弘川　摩子

１．活動目標

・事業計画に基づき、事業の執行状況の報告及び実績の評価を行う
・その他本会事業運営に関する意見交換を行う

２．活動内容

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
定例委員会 【マルイトOBPビル】	事業計画及び事業執行状況の実績評価、意見交換	全２回 （うち１回休会）	委員 20名

３．活動実績

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
定例委員会 【マルイトOBPビル】	第１回　休会	―	―
定例委員会 【マルイトOBPビル】 【ハイブリッド開催】	第２回 1）新型コロナウイルス感染症対応状況 2）令和4年度重点事業・事業計画の執行状況及び実績評価 3）令和5年度重点事業 4）意見交換	３月28日	16名

【活動の概要】
　新型コロナウイルス感染症拡大に伴い大阪府からの要請を受け、本会が行った事業状況について報告した。令和4年度重点事業と事業計画の執行状況の報告と実績評価、次年度の重点事業を説明し、コロナ対応で従事した潜在看護師の今後の活用、まちの保健室の周知、ＡＣＰの普及について意見交換を行った。

４．課題・その他

　次年度は重点事業を中心に本来の事業運営にさらに取り組むと共に、コロナ対応に従事した潜在看護師の活用やデータベース化について整備していく。
今後も看護協会として会員や府民のニーズに合った事業を積極的に進めていきたい。

資金管理運営検討委員会

委員長 :桑鶴　由美子

１．活動目標

令和４年度も新型コロナウイルス感染症対応の受託や補助金事業とともに、通常の本会事業も計画通り進めていきながら、資金管理を適正に行い、健全な財政運営に努める。

２．活動内容

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
定例委員会 【マルイトOBPビル】	外部委員（公認会計士、顧問弁護士）に予算の執行状況、次年度予算、資金繰り、定期預金等の報告を行った。	全２回	9名

３．活動実績

実施項目 【開催場所】	内　　容	開催日など	参加者数
委員会 【マルイトOBPビル】	1）令和4年度第1四半期収支報告 2）資金繰りについて 3）取引金融機関、定期預金等の報告 4）レモンホール等設備更新事業について	10月4日	9名
委員会 【マルイトOBPビル】	1）今年度予算執行状況について 2）資金繰りについて 3）取引金融機関、定期預金等の報告	3月24日	9名

【活動の概要】

事務局から各項目について説明・報告し、健全経営に資することを目的に意見交換を行った。

コロナ事業で一時的に収支が大きくなっていたが、次年度からはコロナ事業の委託も１件（5/7まで宿泊療養施設への看護師派遣）のみとなり、ようやく通常の本会の事業規模に戻る。

ただし、前年度にかかる税金（消費税）の支払いもあるため、資金繰りの状況を把握していきたい。また、定期預金については低金利が続く状況ではあるが、高利回りの商品で運用はせず、現状維持で管理していくこととした。

４．課題・その他

研修事業についてはレモンホール等設備更新により、WEB研修や研修室の双方向のやり取りが可能になるなど、今後はより充実した研修が行えるようになる。

本来事業の安定的な運営のためには、入会促進と研修による収益の確保に努めたい。